



内宮慶之FP事務所

〒582-0019
大阪府柏原市平野2-449-1
ぶどうが丘ハイツ515号

e-mail : fp.uchimiya@gmail.com

携帯電話 : 090-9803-7479

お気軽にご相談下さい 072-911-4520



内宮慶之FP事務所

検索



FP Topics

= デジタル遺品について =

2026年1月号

= One's impressions =

年も明けて、新たな一年がスタートしました。
みなさんも、新たな目標などを建てられて、充実した一年を
スタートさせたところではないでしょうか！

私も今年は大きな節目の年でもありますので、大過ないよう
ゆっくり暮らしていきたいと考えています。が、お正月“信貴山
朝護孫子寺”で引いたおみくじは«凶»でした・・・
たぶん生まれて初めて引いたかもしれません💧
盛大に良くないことが書き連ねていました。残念・・・

さて、気を取り直して、今月は先月号で少し触れていました、
“デジタル遺品”について、特集してみたいと思います。
最近は色々な場所で、この話題を聞く機会が増えたように
感じます。先日もJ-FLECの講演で市役所でお話しさせてい
ただきました。

= デジタル遺品とは =

デジタル遺品とは、故人が生前に所有していたデジタル機器
(スマホ、PCなど) やインターネット上に残した写真・動画・
メール・SNSアカウント・ネット銀行口座・契約情報などのデ
ジタルデータ全般を指します。



- ・スマホ、タブレット端末
- ・パソコン
- ・デジタルカメラ、ビデオ
- ・SDカード、USBメモリ
- ・外付けハードディスクなど



= Web上にあるデジタル遺品（例） =

ネットショップ等のアカウントID

SNSアカウント

ネット証券・ネット銀行口座

メールアカウント

クラウド上のデータ

ブログやホームページ

仮想通貨

スマホ決済サービス

= 残しておくべきデジタルデータの情報（例） =

PC・スマホなどのパスワード

ネット証券・ネット銀行などのアカウント

有料サービス等のアカウント

仮想通貨やスマホ決済サービスの情報

ブログやホームページのログイン情報

SNSアカウント

= デジタル遺品の整理方法（例） =

HDDやSDカード等へ移す

管理ソフトやアプリを使う

専門業者に依頼する

1. 情報の保管・引き継ぎ機能（エンディングノート系）

自分が亡くなった後に、家族がスムーズにデジタル資産へアクセスできるようにするための機能。

- ・ID・パスワードの管理
- ・資産リストの作成
- ・死後の自動通知・開示
- ・メッセージ・動画の保存

2. 資産・契約の把握機能（資産管理・家計簿系）

死後に家族が「何がどこにあるか」を把握しやすくするための機能。

- ・口座連携（API連携）
- ・解約・退会リストの自動生成

3. データ整理・消去機能（PC・スマホ操作系）

見られたくないデータの処理や、物理的な遺品の整理を助ける機能。

- ・自動データ消去
- ・写真・動画の整理（クラウド保存）

4. アカウント・デバイスの承継機能（OS標準機能）

ソフトをインストールしなくても、iPhoneやGoogleアカウント自体に備わっている機能。

- ・故人アカウント管理（Apple/Google）
自分が亡くなった後、指定した連絡先の人（家族など）が自分の写真やデータにアクセスできるよう、事前に権限を付与する機能。
- ・追悼アカウント設定（Facebookなど）
死後にアカウントを削除するか、思い出として残す（追悼モード）かを選択する機能。

※管理ソフトやアプリで対応できない場合、デジタル遺品の専門業者に依頼することもできそうです。その場合、次の点に注意するとよいでしょう。

- ・実績と信頼性
- ・料金体系（20,000円～50,000円程度が多い）
- ・セキュリティ体制
- ・対応できる範囲 など

前鬼川孔雀又谷に入り、暫くは平凡なゴーロを遡行します。第一の関門は高さ10メートル程の滝を巻登った直後、滝の落ち口近くの渡渉を強いられます。流れも強く膝上ほどの深さもあります。渡渉する距離は5メートル程ですが、転倒し流されると先程巻登った滝の滝壺に落ちていくのは確実。

この寒空の下を流され、滝を落下し、滝壺に叩き落とされるのは、たいへん恐ろしいことです。ただで済まないことは予想がつきます。川幅のある河原では、ロープを固定する支点が存在しません。相方と繋いだロープを信用するしかないのです。慎重に一步一步、足裏で川底を探りながら安定した場所を確認し、体重を移していきます。

少しでもバランスを崩すと膝上を超える水流に体を持っていけません。全神経を集中して対岸を目指します。川幅はほんの5メートルほどですが、運動量とは比例せず緊張と寒さで心臓はバクバク、変な汗もかいています・・・
何とか対岸に渡り切り、引いたロープで相棒を確保します。渡渉はロープを張るのが一番安全ですが、対岸から確保してもらう方が比較的安心して渡渉できるような気がします。

対岸に渡り、進行方向目に飛び込んできたのは、超絶微妙なバランスで安定している大岩（掲載写真）でした。これまでも、大雨や台風など大きな力が働いたと思われるのですが、こんな大岩が超絶微妙なバランスで均衡しているのは奇跡だと感じました。この超絶バランスもいつかは崩れるのだと、自然の摂理に感慨深いものがありました。

ここから、大岩の右側を沢の奥へ入っていくのですが、すこし沢の瀬が泡立っている落ち口あたりは、碧が濃くなっているように見えますね。あの辺りはかなり深いのです。この気温のなか、泳いで取り付くなんて自殺行為です。記憶は定かではないですが、たぶん右岸（大岩の左側）を巻いて、沢の奥へと入っていったのだと思います。本格的に遡行開始です！

